

広報



かわにし

平成 3 年 4/10 No.392

〒948-01 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 (TEL 0257-68-3111)

(FAX 0257-68-3828)

発行 町長 南雲春雄 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社

(毎月10日発行)

人口の動き
— 4月1日現在 —
男 4,460(-5)
女 4,486(-12)
計 8,946(-17)
世帯数 2,218(-3)

()は前月比較



ぼくらは大工さん

— 3月15日 —

川西幼稚園(園児数53人)の運動場に、牛乳パックの空き箱で作った、大きな家が出来上がりました。

これは、去年11月から少しずつ作業を進めてきたもので、およそ1,200個の空き箱を使用。空き箱は、父兄の方々が中心になって、2年がかりで集めてきたものです。

園児たちは「やったー」とか、「すげえー」とか、思い思いに完成を喜んでいました。



休日救急医

4月14日 千手診療所(中央町) ☎68-2034

21日 中条病院(中条) ☎57-3018

28日 庭野医院(寿町) ☎52-2711

29日 山口医院(下条) ☎55-2003

5月3日 大島医院(川原町) ☎52-2957

4日 至誠堂医院(西浦町) ☎52-3276

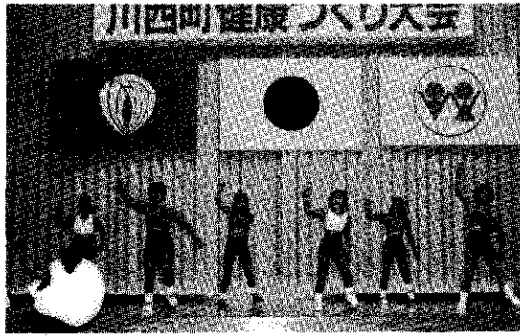
5日 第二藤巻医院(上野) ☎68-2018

6日 富田医院(神明町) ☎52-3269

議会報告

三月一日から始まった第二回町議会定例会が、二十六日間の全日程を終わり、二十六日に閉会しました。

五日、町長の施政方針演説と新年度予算の提案説明がありました。以後、各常任委員会の審議を経て、二十一日に平成三年度川西町一般会計と八つの特別会計予算などが成立しました。南雲町長の平成三年度施政方針から、その概要を紹介します。



多くの人が参加した健康づくり大会
(2.9.30総合体育館)

川西町が平成三年度に取り組む主要な施策と方針につきまして、所信を申し上げます。

平成三年度は、まちづくりの基本的指針である第四次川西町総合開発計画中期基本計画の締めくくりの年であるとともに、後期基本計画の策定の年に当たり、二十一世紀に向けての確実な足掛かりを築く重要な年度であるといえます。

また、諸施策遂行の裏付けとなる町財政につきましても、町議会及び町民各位の絶大なるご理解とご支援により、年々着実に財政状況を好転するに至っています。

なお、第四次町総合開発計画には、平成七年度までの目標値を掲げてあります。町民税法人均等割が昭和六十三年度から、固定資産税は平成三年度から標準税率を実施予定しており、ともに目標を達成する見通しと

つています。

公債費比率については、一〇・〇％(目標値八・〇％)まで減少させることができ、なおも目標値に向かって、優良債の積極活用などにより暫減に努めているところ です。

経常収支比率及び基金の積立額については、目標値に至っています。

財政運営については、日々不断の心掛けと努力を積み重ね、足腰の強い財政基盤を構築していかねばならないと考えています。ましてや、具体的に展開している各種の大型プロジェクトの財政需要を計画するとき、今後とも一層効率的な財政運営への取り組みが必要であると考

えています。これらの政治及び行財政事情を背景として、平成三年度に展開する施策と方針について申し上げます。

切さを、一層周知し啓発してきたいと考えています。

地域医療の面については、新年度から医師の増員により、診療内容も内科、外科、小児科、皮膚科、漢方医療、内視鏡検査など、診療科目の範囲を大幅に拡大できる計画であります。

このような状況の中で、町としては、健康づくり運動の実践を通じて、「自分自身の健康は自ら作り上げて行く」ことの大

心身ともに健康で明るく伸びる町民

このために平成三年度では、医療機器の整備と医師住宅の建設を予算計上しています。

住民の皆さんがもっている、医療に対する不安と診療体制の拡充要望について、今後とも力を注いでゆく所存であります。

上下水道関係については、JR補償水源の早期確保と、これ

おもてなしの親切がいつまでも続く町民

社会福祉については、町が高い高齢者比率であること、その進行の度合いがかなり早い現状にあることを、まず考えておかなければならないと思います。

国では、高齢化社会に向けて「高齢者保健福祉十カ年戦略」を強力に推進している中で、国の取り組みに呼応しながらも、町は町の社会福祉の現状を良く

に伴う既設の水道施設の整理を含め、第二期拡張計画を完了させたいと考えています。

なお、千手地区の下水道事業については、平成三年度に基本計画を樹立し、四年度に実施設計を立て、平成五年度から着工する計画で現在作業を進めているところ であります。

見極めて事務事業を進めたいと考えています。

新規事業として、「ひとり親家庭医療費助成事業」「福祉タクシー利用料助成事業」の二つを取り上げたところ であります。老人福祉面については、現状の福祉施策の観点にとらわれず、熟練された優秀な人材として受け止め、地域社会のために責任ある役割を担ってもらうことが大切であると考えています。

児童福祉については、保育料が園児を持つ家庭の経済に大きな負担となっていますので、この減額措置を行って、保護者負担の軽減を図りたい。保育料の減額は、最高四〇％までの減額措置を予定しています。

嫁、婿、後継者不足の対策については、依然として重要な地域問題でありますので、町が囑託として「嫁、婿家庭相談員」を設置して新たな取り組みをス



セタのつとめ
(2・7・4上野保育園)

スタートさせます。
この問題に関しては、地道に
そして継続的に考えてゆかなければならないと思っています。

雪にもめげずたくましく発展する田んぼ

住民生活における基礎的要件である道路整備と克雪対策について申し上げます。

道路関係では、平成四年春に待望の妻有大橋の開通が予定されています。これと時を合わせて供用開始するよう着手する、山野田下平線の改良舗装工事を中心に、ほか二十七路線の改良及び舗装工事を計画したところがあります。

また、克雪対策としては、「流雪溝整備基本計画」の策定を行うとともに、農業用ダムの多目

的利用を図るよう、具体的作業に着手する計画であります。

更に、道路除雪体制の新たな取り組みとして、現在、町の除雪対象路線となっていない集落内道路についても、除雪を実施してゆきたいと考えています。

その除雪方法はこれから具体的に検討してゆきます。計画としては、町が貸し出し専用の小型除雪機を十台導入し、除雪作業は各地区に委託して実施するシステムを予定しています。

より効率的な除排雪への処理

はたのいもどきもどきな生産の田んぼ

川西町は、水稻を基幹とする農業の町であります。また、良質米生産地として条件に恵まれています。しかし、農業構造改善により、大規模機械化営農体系が確立され、労働生産性の向上と省力化が図られました。

その結果、第一次産業の就労比率が減少し、現在約七五％の人たちが第二次、第三次産業に従事しています。

こうした多くの人たちが、地元で安心して勤められる職場を求めてゆくために、企業誘致活

動、地場産業の育成と開発を更に推進してゆく所存であります。

農業面については、良質米の生産を基調として、経営規模の拡大や生産コスト引き下げの工夫、有機栽培による付加価値米の研究、生産組織の育成・強化など、これらは継続的重要課題であろうと考えています。

なお、水田農業確立対策事業については、大豆コンバインの購入など、転作機械の整備拡充を計画しています。

また、地域活動の拠点となる

三千人が参加した雪まつり
前夜祭 (3・2)



組みを、町と地区民とが協調して行う形で進めたいと考えています。

都市計画事業関連については、いよいよ用途地域指定の段階に入ります。

集落センターの建設に対しては、二地区に助成を実施したいと考えているところがあります。

林業振興の面については、町行造林の継続と、新たな時代に対応する森林のレクリエーション利用にこたえて、節黒城跡公園キャンプ場にバンガローの建設を行います。

商工、観光面については、妻有大橋の開通や都市計画事業の導入などにより、町の商業活動も新たな局面を迎えることが予定されます。そこで、共同店舗、

→などを含む商業機能の充実など、新しい商店街づくりのために中心的活動を担う町商工会に対して補助事業を強化したいと考え

香のゆかしい文化を創造する田んぼ

「町づくりは、人づくりにある」と言われます。町の将来を担う大切な子供たちのために、教育こそ一時もおろそかにできない重要事項であります。そのために、昨年度に引き続いて教育施設及び教育環境の整備に取り組んで参る所存であります。

主な事業は、千手小学校南校舎の大規模改造工事、白倉小学校体育館屋根改修工事、川西中学校グラウンド改修工事に着手する計画であります。

社会教育については、生涯学習、生涯教育の重要性に着目して事務事業を展開してゆきたいと考えています。高齢化社会への対応も含めて、ゆとりある充実した生活の実現に向けて具体的な取り組みをスタートさせた所存であります。

また、文化会館の建設については、建設委員会を結成して、建設における諸問題を多角的に調査、研究してゆきたいと考えています。その結果については、後期基本計画などに反映させたいと思っています。

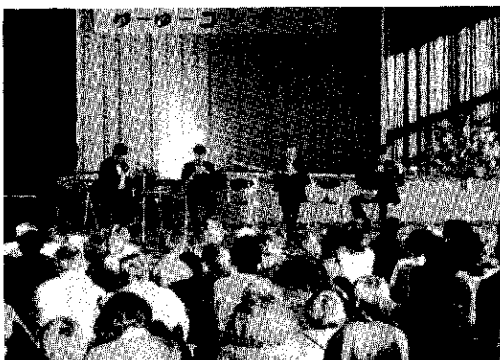
中子台地に造成中の「ふるさ

ています。

観光施設の整備については、民俗資料館脇に屋外トイレを建設する予定であります。

と広場」は七月にオープンする予定です。なお、同広場は平成三年度についても、駐車場の整備、トイレの建設、バスターゴルフ場の照明施設などの補完的工事を実施する計画であります。

また、今後のふるさと創生事業の取り組みについては、この事業の趣旨にそって、多くの町民の方々から参加と賛意を得られる事業を考えています。引き続き、ふるさと創生事業推進委員会の審議をいただきながら進めてゆく所存であります。



「町民文化祭かわにし90」の
ゆーゆーコンサートのもよう
(2・11・11千手小体育館)

総括 質疑

三月議会定例会は、二十六日閉会しました。
なお、今回の議会で議決された新しい条例は、七月にオーブンする予定の「ふるさと広場」の設置条例がありました。
総括質疑の概要をお知らせします。

農業立町に向けた対応を

上村 広 治議員

① 農業立町の基本的考え方について

(1) 農村地域活性化推進事業の取り組みをもっと積極的に進められないか。

(2) 公害問題、畜産振興問題などは、畜産振興費に計上した予算で対応できるのか。

(3) 生産組合、機械施設利用組合に働くオペレーターの育成や確保に、積極的な予算付けができないか。

(4) 上野地区で昨年度、暗きよ排水の機能回復試験を実施。効果が薄く、もっと効果的な方法が実施できないか。

(5) 重点作物組織化育成事業補助金の減額理由は、

② 節黒城跡の整備について

(1) バンガロー建設は、民間スポンサーとのかかわりがあるのかどうか。

(2) 施設整備について、今後の見通しは。

南 雲町長

① (1) 本事業は、行政が主体的に取り組む考えのもとに、所要の経費を見積もったものである。また、地域特産品の開発については、農協や関係組織の皆さんとの事前の調整の中で措置したものである。この分野については、人づくりの重要性を啓発していきたい。

長い目で、無理のないよう、じっくりと今後も取り組みを継続してまいりたい。

(2) この費目に計上した額は、先進地視察、研修会の負担金や事務費などの経常経費である。町としても必要により、臨機応変の対応をしたい。

(3) 一昨年七月に、町内の生産組織が加盟する、町生産組織連絡協議会が結成された。この組織が軌道に乗るまでの間、先進地視察や研修に要する経費の助成を考えている。

昨秋には、千手機械施設利用組合が、冬期雇用の場を確保するため、モチの加工施設を建設した。町としても、百五十万円の助成をさせていただいた。

平成三年度予算に、小型除雪機の購入を予定している。そのオペレーターを機械施設利用組合にお願いできないか、年間雇用に役立つ手立てになればという措置である。

(4) 試験期間中、作付けをしたため、期待するデータを得られず、二年度は野口地区で、試験期間一年間は転作するという事で、工事が施工された。

工事の方法は、幅7cm、深さ1mくらいまで掘れる溝掘機に、モミガラ投入装置のついた簡単な機械で、トラクターに接続し、少し練習すれば簡単に操作できるものである。

農業試験場では、ずっと以前からこの工法を検討していたようであり、その成果を期待して

いるところである。
(5) 毎年度決算で不用額を生じているという事情を勘案したもので、他意はない。

② (1) この事業は、平成二年度にスタートした林業山村活性化林業構造改善事業の指定を受けて実施するもので、スポンサーうんぬんとは、まったく関係ないものである。

(2) 公的な観光レクリエーション施設を整備していく町では、節黒城跡は最適地である。

診療所機器整備で手狭の不安

柳 藤 作議員

町国民健康保険診療所の運営について

(1) 診療所医療機器の整備が多く、現診療所を一部改造するくらいで、各種医療機器導入は物理的に対応できるのか。

(2) 保健センターを診療所に活用できないか。

(3) 一日も早く新しい診療所の建設を望みたい。

南 雲町長

(1) あくまでも、医師が診療に使うものばかりで、一診療所としては標準的な整備であることをご理解いただきたい。

また、改装については、科目ごとの診療室の設置を第一に考

今後、構想しているプランについては、地元をはじめ、観光協会、その他の関係者と研究・協議しながら、公的施設整備の立場から、国、県、の補助事業を導入したいと考えている。

いずれにしても、今後、速やかにまとめあげたい整備構想について、年次計画をもって実施したい。

具体的な見通しについては、しばらく時間をお貸しいただきたい。

慮した。現在の診療室、未使用の部屋、倉庫などを改装して使用したい。

このことにより、新規購入の医療機器は、すべてそれぞれの科目ごとの部屋に納まり、プライバシーの保護も兼ね、診療できるのではないかと考えている。
(2) 現診療所を改装して使用できることから、保健センターは、現在同様、多方面に活用したい。
(3) 現在の診療所が、機能的に十分であるという認識は持っていない。

私としては、できるだけ早い時期に、新しい場所に診療所を求めたい。また、将来、お年寄りの施設を町に造りたいというような点を考え合わせた場合に、医療機関と併設するというのが



大勢でにぎわった農業祭なわとび大会 (2.11.3 川西中学校)

極めて重要な要素になってくる。そういう面からも、今の場所では

西山開発取り組み状況は

戸田 哲 次議員

① 老人福祉施設の用地の確保、高齢者福祉の推進と今後の計画について伺いたい。

② J R 水対策と流雪溝用水対策について

(1) かんがい用水、流雪溝用水や取水問題など、今後の町の方針、取り組みはいかに。

(2) 流雪溝の整備に伴う水源確保の具体的計画、進め方、関係町内や一般住民への P R、供用開始の見通しはどうか。

(3) 町流雪溝整備事業実施計画の基本的な考え方、将来の見通しと都市計画事業との整合性についてどう考えているか。

③ 西山ゴルフ場開発と町の取り組みについて。

(1) 朋玉堂から示された開発基本構想の進展について、今までの経過、内容、今後の方針を伺いたい。

(2) 町民にも広く紹介し、内容の説明などをしてはどうか。

南 雲町長

① 急激な高齢化現象が進む中で、高齢者対策は緊急な今日の課題である。養護老人ホーム、老人

は不十分であると思っている。

保健施設、軽費老人ホームなどは、早急に必要になってくることは十分認識している。

また、在宅福祉の充実、寝たきり老人対策、施設の整備充実、どれをとってみても重要な課題である。

特に、施設の充実については、医療と関連付いていかなければならないので、診療所の今後の過程を合わせて、十分見極めておかなければならないところである。

町総合開発計画後期計画の策定の中で、いろいろな指導をいただきながら計画づくりに取り組んでまいりたい。

② (1) 農業用水に被害が発生した場合、横坑湧水などによって

まかないたいという J R の考え方があった。しかし、ほ場整備地内の補償対応は、横坑湧水ではまかないきれるものではなく、土地改良区では、毎秒〇・二トンの補償を主張してきた。

その回答が、現在土地改良区が保有している、北沢川の水利権復活ということに連動している関係にある。

その水利権の確立には、まだ法的手続きなどの問題が残っており、現在、その手続きについての作業に取りかかっている。

克雪用水については、現時点で県道、町道合わせて十四本の消雪用井戸が枯渇あるいは大幅な減水をきたしている。これが水路トンネルとの因果関係だという立証は極めて困難である。

しかし、私としては、因果関係がないのであれば、そのような証拠を J R 側が示すべきだということでは協議を進めている。

農業用水、克雪用水については、直ちに決着ということは難しいという感触を得ている。しかし、八月ころには全体の決着を見たい、このような期待をしている。

(2) (3) 流雪溝用水は、地下水や溪流の少ない川西町においては、農業用ダムに頼らざるを得ない。農業用ダムを他の目的に使用

する場合、知事の許可が必要であり、平成二年度に県との協議を開始。ようやく県農地部の了解が得られる見通しとなった。

そのうえで、水利権の申請を提出する、このような運びが必要になってきている。

これらによりやく見通しがついたと判断しており、平成三年度において水利権の取得、流雪溝整備実施計画を作成し、平成四年度から着手できればありがたい。

また、今後の課題は、中小河川の整備が重要で、今までの信濃川の整備を重点としてきた、「河川愛護会」の業務分野、仕事の範囲を中小河川整備に切り替えていく必要がある、補助金の増額を図ったところである。

流雪溝は、道路側溝の機能も同時に果たすことから、都市計画の街路計画との整合を当然図る必要がある。

流雪溝整備事業を実施していくためには、かなりの期間が必要と思われるので、その間にも都市計画街路の工事に合わせたものとして進行できるといふことになれば幸いである。

一般町民への P R は、実施計画作成にあわせ P R 用パンフレットを作成し、配布したい。

流末河川の整備や、ダムの遠隔操作ということが回避できない条件であり、これらの事業が

動き始めた段階でない、具体的供用開始時期の明示は極めて難しい。

③ (1) 昨年九月七日、議員の皆様に対して会社側からの構想説明があった。その後、十六人からなる「西山開発地権者協議会」が十月三十日に組織されている。

また、十一月から十二月にかけて、大面積の共有地を抱えている水口沢、沖立の両地区において、会社側からの説明が特に開催されている。

なお、正月前後において、会社側では、稲葉地区の一部に開発地域の拡大を図るよう、三回ほど関係者への説明会をされたところである。しかし、当初の構想どおり、川西町の地域のみには落ち着くといった経緯があったと聞いている。

今の状況としては、コースのレイアウトを再三にわたり検討中であり、計画区域の線引きも、常に入りができるように聞いている。

現在の地権者の同意状況は、面積が一六三ヘクタール、筆数七〇六筆、地権者数二〇六人、同意率八三%と聞いている。

また、養豚団地の問題については、条件の提示により、農家の方からは転業、あるいは移転という方向の検討をいただく中で、開発同意にはご理解を示していただいている。



改装して、装いも新たな診療所

今後の方向としては、事務的には県の「大規模開発行為の適正化対策要綱」に基づいて進めることになる。

これに基づく過程の中で、町と事業主の間において自然環境の保全、公害防止の措置などを規定した開発協定、防災工事に関する契約の締結などが必要になってくるのではないかとと思われる。

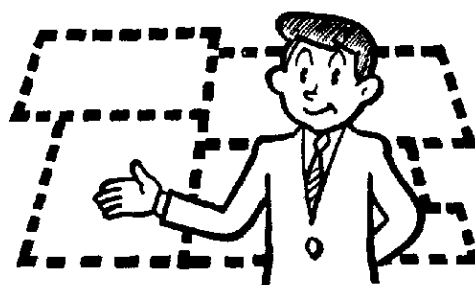
町としては、県の要綱をそのまま踏襲すべきか、それを強化した内容を求める必要があるかどうか、新年度に入ったら、早々に議会の大規模開発対策特別委員会のご審議をいただき、町独自の成案を得るよう準備中である。

また、町としては、諸条件のクリアーを前提に、その方向に指導したうえで、開発実現に向けて慎重に対応したい。

(2) 町民の皆様に対しての説明会などは、その機会が必要であると認識している。

また、個々の具体的な検討や町の基本的な考え方をまとめているという状況であり、それらをまとめたうえで、具体的な問題について会社側とさらに協議を重ねる過程で、町の皆様方に対しての計画説明ということも必要になると考えている。

4月は「土地月間」



土地取引引きには届出が必要

●国土地利用計画法

国土地利用計画法では、土地の投機的取り引きや地価の高騰を抑制し、乱開発などを未然に防ぐため、土地取り引きについて

届出制を設けています。

次の一定面積以上の土地取引引きをしようとするときは、この法律によりあらかじめ知事に届け出なければならぬことになっていきます。

千手・上野橘地域の都市計画区域	五、〇〇〇㎡以上
その他の区域	一〇、〇〇〇㎡以上 (約一町歩)

個々の土地取引引き面積は小さくても、合計して一定面積以上になる一団の土地に対しても届け出が必要です。

●届け出から契約まで

契約をしようとするときは、取引引きの当事者（売買の場合であれば売主と買主）は、取引引きの予定価格や利用目的を記入した知事あての届出書を、契約を結ぶ六週間前までに役場に届け出てください。

知事は、取引価格と利用目的について審査し、不相当と認めるときは、取引引きの中止または変更を勧告することがあります。それ以外の場合は、届出日から六週間以内に勧告をしない旨文書で通知します。この通知を受け取れば、契約ができることとなります。

●届け出が必要な土地取引引き

届け出なければならない土地

「今、こだわりたい雪国の住まいとは、ぬくもりのある地域づくりのために何が必要か」と題した討論会では、「住まいの問題は、地域と密接な関係がある。そのために、町長がどう旗を振るにかかっている。

川西町は地の利としては不便な条件である。しかし、人の輪はどこにも負けない。これを精力的に育ててもらいたい」と、結んでいました。

取引引きは、次の要件のものです。

- 売買
- 共有持ち分の譲渡
- 営業譲渡
- 譲渡担保
- 代物弁済
- 交換
- 予約完結権・買戻権などの譲渡地上権・賃貸権の設定、譲渡

●届け出をしないと

届け出をしないで土地取引引きや偽りの届け出をすると、六カ月以下の懲役または、百万円以下の罰金が課せられることがあります。

*届け出に必要な用紙は、役場にあります。詳しいことは、振興係へおたずねください。

克雪タウンフェア

200人が参加

雪国の住まいと暮らしを考える「克雪タウンフェア」が、三月十七日、総合センターと町営朝日町団地を会場に、開かれました。

これは、町が平成二年度から取り入れている克雪タウン計画促進事業の一環として開かれたもので、ゆきふれあいシンポジウム、住まいの相談室、屋根雪処理メーカー展示、木造耐雪住宅の一般公開などがありました。



それぞれ異なった立場の方々が、討論したパネルディスカッション

「地域医療」貢献に感謝



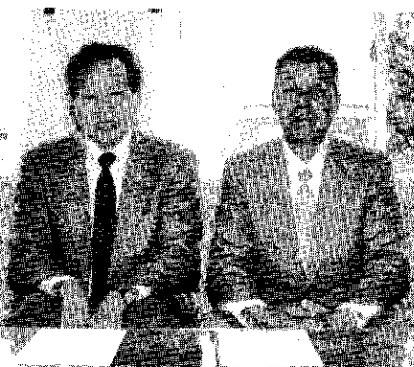
本年三月三十一日をもって、診療所の川崎医師が勇退されました。

先生は、囑望されて、昭和三十九年十二月から二十六年四月の間、町国民健康保険診療所長として就任。四十四年には、仙田へき地出張診療所を設置する実績を残され、自ら出張所長を兼務されました。

山間豪雪地である当町の医療に献身的に活動され、地域住民の大きな信望を集めてきたことなどは、ご存じのとおりです。

先生は、「自分が面倒を見ていた老人が、自らの命を絶ったときは、裏切られたようで、切なくて、いちばんつらかった」、「三十九年ころはほとんど在宅出産で、難産の子供を取り上げ、その子が入学したときなどは、大変うれしかった」。「保育所で予防注射がいやで、ピアノの下に隠れていた子供が、一人前に父親になっていた」ことなど、エピソードを語ってくれました。

地域の交通安全リーダーが誕生



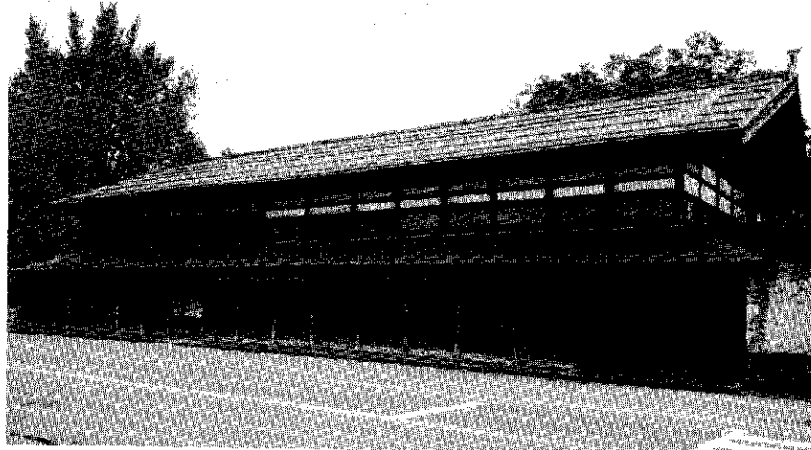
推進委員の藤田さん(左)と小林さん

地域における交通安全と円滑な推進ができるよう、国ではことし一月から、地域交通安全活動推進委員を新設しました。

この委員は、都道府県公安委員会が定める区域ごとに組織されるもので、十口町警察署管内では十五人を委嘱。町からは次のお二人が推薦されました。任期は二年です。

藤田隆策さん(栄 町61歳)
小林功七さん(中仙田60歳)

「星名邸」国の重文に指定



▲「星名邸」母屋

▼ 広い母屋の内部

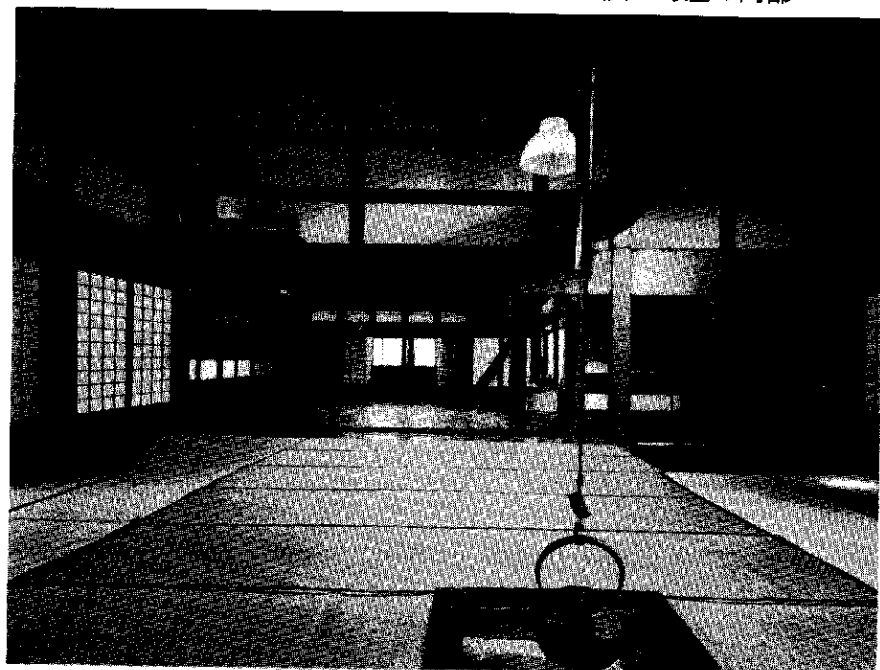
三月二十二日、国の文化財保護審議会が、文部大臣に重要文化財(建造物)などの選定について答申をしました。

今回、県内で指定(建造物)の答申を受けたのは四件です。この中に、当町・上野の星名四郎さん所有の「星名家住宅(七棟)」が含まれています。

星名家は、江戸時代に酒造業を営みながら、大地主として発展した町家で、いわゆる小千谷街道の西側に面して広大な屋敷を構えています。街道に面した母屋の間口は三十二メートルに及ぶ豪壮な造りで、内部には広い板敷きの茶の間や台所があり、四室の座敷を備えています。母屋の背後の敷地には、南北に土蔵造りの蔵

が三棟ずつ並び、これらに囲まれて庭が造られています。

大規模で、質の高い造りの母家は保存もよく、六棟の土蔵で囲まれた屋敷構えも含めて、新潟県における大地主層の住宅の代表的な例として価値が高いこと、などが選定された理由です。ことし三月十五日現在、県内では二十八件の国指定文化財(建造物)があり、星名家住宅も、これに加えられることになりました。

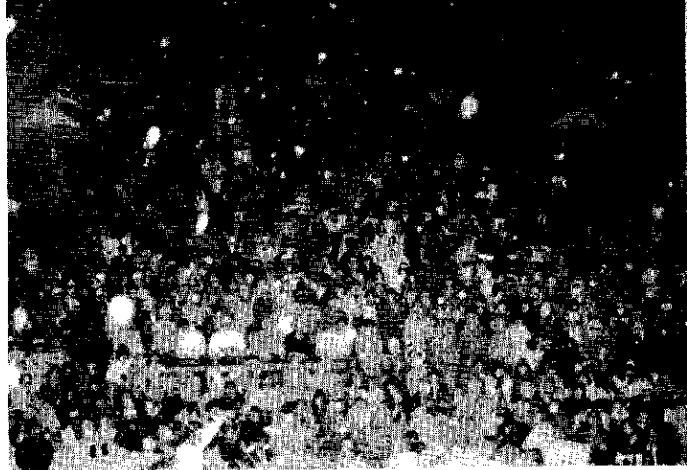


第5回

川西

カメラ
ルポ

雪まつり



▲ 3,000人が参加した前夜祭

三日、日、二日に第五回川西雪まつりが開かれました。平年並みの雪と、まあまあの天候に恵まれ、かつてない盛況を見せました。

前夜祭は、総合体育館の横を会場として、二七〇リトル（十五斗）を超えるお酒や十五店の無料屋台、小羊牛ダンスフェスティバル、豪華商品の当たるおたのしみ抽選会……、およそ三千人の人たちが集い、楽しみました。

三日は、角万寿スキー場特設会場で雪上モトクロスや人間ばん馬大会、少年サッカーなどが催され、庚塚野球場では雪上フットボール大会があり、およそ千五百人が参加しました。

まつりの中から、その一部をカメラで追ってみました。



▲ ホラ貝の音を響かせて、さいの神のはじまりです

おまつりチーム（千手小）による「おどるポンポコリン」



ファイフティーンスターズ（仙田小）による「八木節」



キララ（千手小）による「学えん天国」



やじまこうむてん（千手小）による「あいわんなダンス」

キングバイソング（千手小）による「おらグズラだど」



ベケベケ（千手小）による「こころは上天気」





人間ばん馬大会には23チームが参加。趣向をこらした仮装も見逃せませんでした

ワイルドガールズ（千手小）による「ラッシュライフ」



ヨボヨボ老人クラブ（千手小）による「ナシヨナルメディアボーイズ」



「なかまの家」の人たちも雪像を作って、まつりを盛り上げてくれました

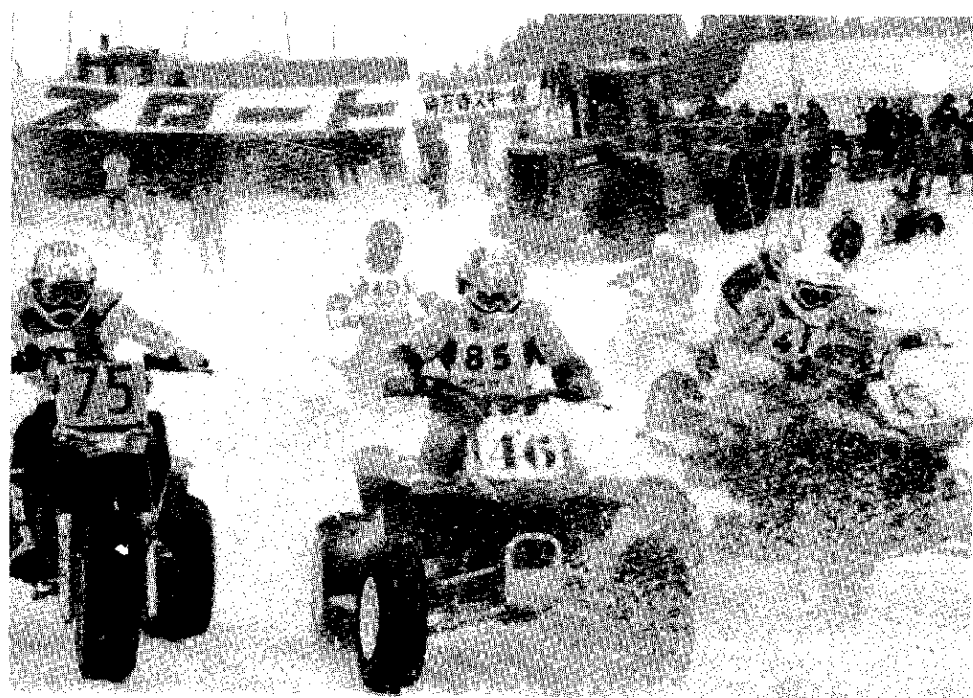


ミスかわにしも、まつりに一役。（左からことしのミスの渡辺さんと佐藤さん。去年ミスの大野さんと星名さん）

▼ 男子11チーム、女子5チームが参加して熱戦が繰り広げられた、雪上ソフトボール大会



▼ 各小学校から12チームが参加した雪上サッカー



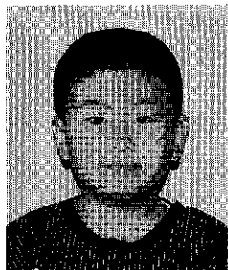
9部門、83台が迫力のあるレースを展開した、雪上モトクロス大会



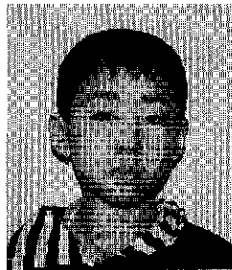
①江口一樹
②朝日町
③清



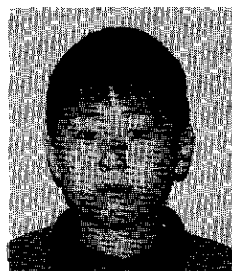
①門協和実
②伊友
③慶淳



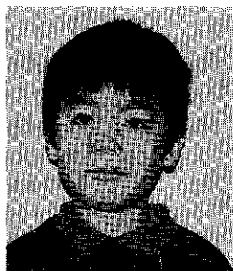
①星名佑太
②中央町
③秀利



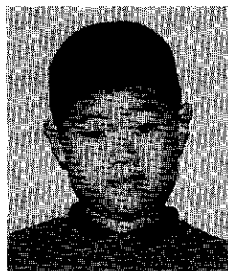
①江口和明
②栄町
③立巳



①馬場悠介
②朝日町
③繁信



①星名亮輔
②栄町
③忠雄



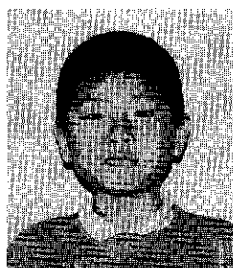
①茂野知幸
②高原田
③邦雄



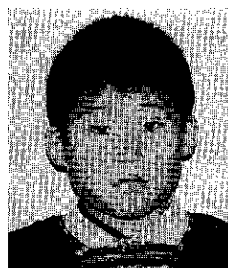
①南雲悠延
②寺尾
③洋一



①桑原佑介
②伊友
③武



①五十川雅彦
②沖立
③雅幸



①星 拓也
②中島町
③敏夫



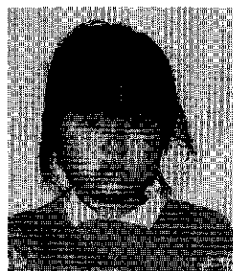
①小林正貴
②木島
③重則



①玉村童一
②高原田
③まち子



①高橋聡子
②中屋敷
③賢一



①相崎朋子
②沖立
③京子



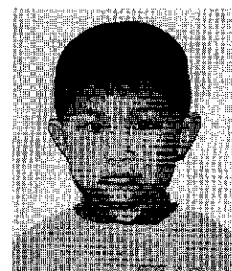
①佐藤麻衣
②高原田
③正利



①川崎佳美
②発電所通り西
③充



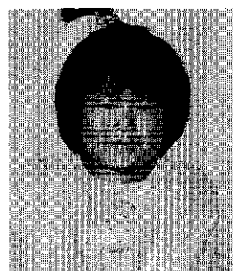
①内山葉子
②栄町
③龍二



①中村知弘
②坪山
③公一



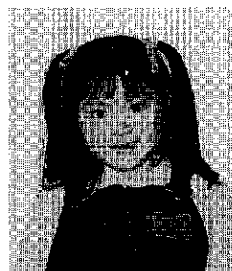
①蔵品明日香
②四郎兼
③春夫



①太田恵梨子
②寺尾
③重敏



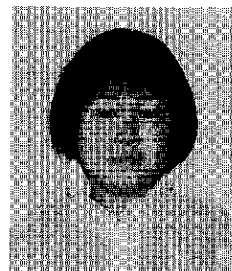
①小川千春
②発電所通り東
③勲



①貴田麻理子
②伊友
③道雄



①高橋愛子
②高原田
③和夫



①高橋優子
②高原田
③和弘

千手小学校(55人)

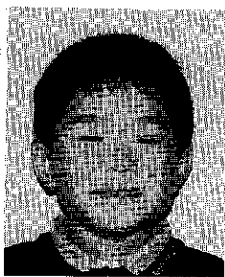
期待
4月から
不安
一年生

(敬称略)

四月五日、六日に町内の各小
学校で入学式がありました。
各学校の新生一年生一二二人・
(男子六十七人、女子四五人)を
紹介します。敬称略(①氏名、
②住所、③保護者の名前)



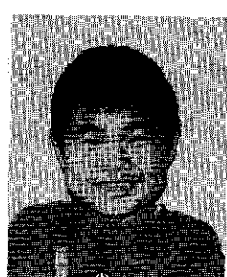
①小林慶裕
②中屋敷
③良房



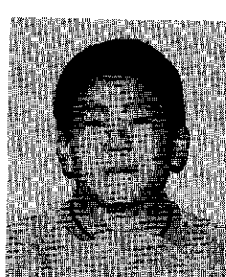
①尾名大輔
②伊友
③藤一



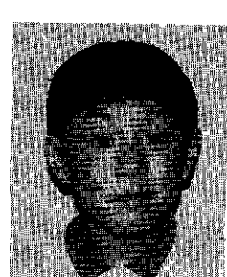
①山本 渉
②中屋敷
③契一



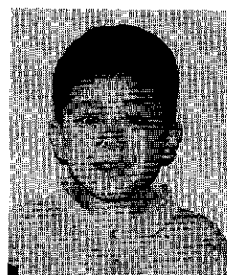
①太田和伸
②中島町
③栄



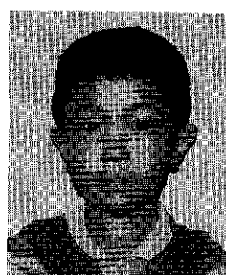
①斎木猛志
②神社町
③鉄也



①高橋直隆
②神社町
③勇



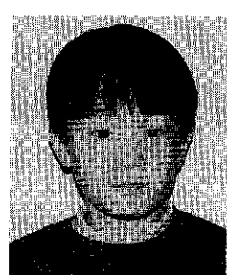
①保坂一也
②高原田
③久夫



①田中 抄
②朝日町
③正樹



①星名恵輔
②伊友
③恒雄



①田村幸一
②高原田
③和男



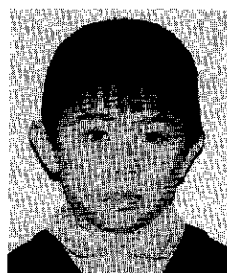
①五十川潤
②沖立
③清



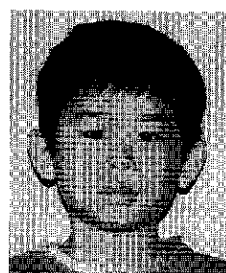
①茂野拓也
②栄町
③繁実



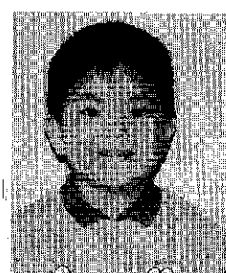
①長谷川えり
②中屋敷
③徹



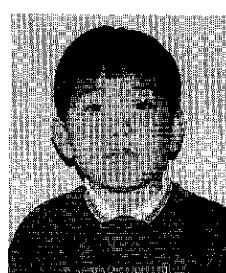
①小林一将
②木島
③大三夫



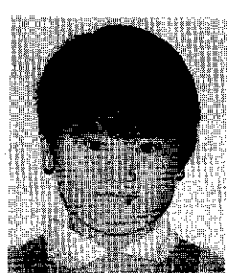
①田中優貴
②栄町
③千春



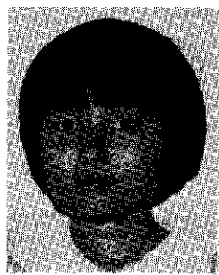
①北村弘輝
②中央町
③良二



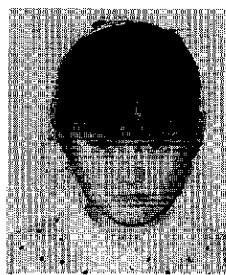
①高橋 亮
②霜条
③泰一



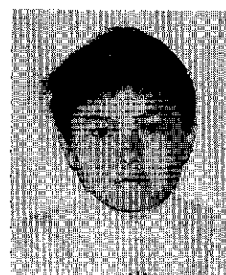
①片桐裕太
②発電所通り西
③政栄



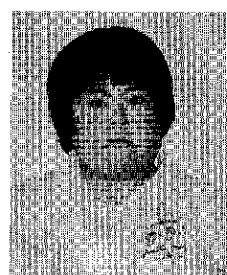
①星名香奈子
②伊友
③和弘



①大海美和子
②霜条
③剛



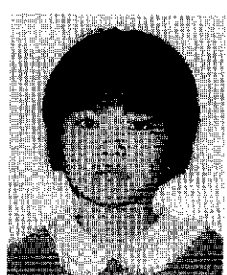
①柄沢久恵
②沖立
③和久



①川上 都
②学校町
③三喜男



①吉楽美鈴
②高原田
③正実



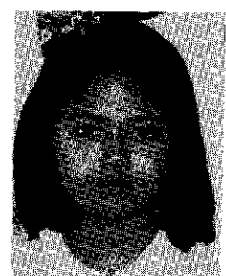
①数藤 岬
②沖立
③信行



①小林菜穂子
②中屋敷
③敏之



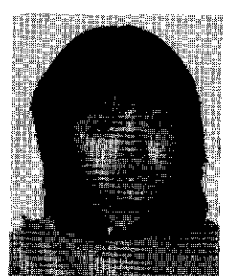
①高橋 望
②中屋敷
③佐久平



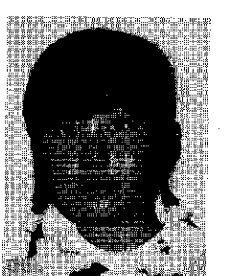
①羽鳥ゆき
②中央町
③宏史



①関口明日香
②中島町
③宗一



①高橋美希
②坪山
③郁男



①蔵品真澄
②木島
③隆

上野小学校(19人)



①上村雄一郎
②下平新田
③信行



①金子 瞳
②上野
③守



①上村晃一
②上野
③修一



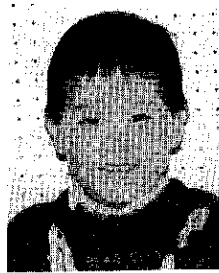
①片桐俊一
②上野
③正二



①清水敬太
②上野
③賢司



①押木香織
②元町
③和之



①沢口光光
②下平新田
③則雄



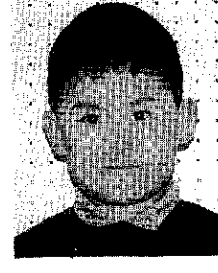
①若山奈津紀
②新町新田
③茂男



①片桐恵子
②上野
③一弥



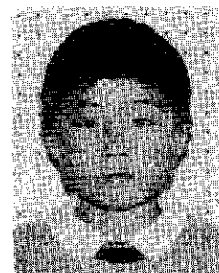
①田畑のぞみ
②元町
③誠



①小林祐樹
②上野
③光雄



①高橋美恵子
②三領
③喜三郎



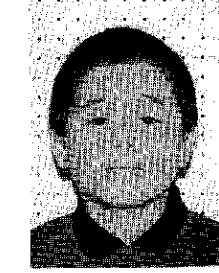
①上村和樹
②上野
③義雄



①丸山和哉
②新町新田
③正樹



①根津奈織美
②上野
③徳男



①蔵品 佑
②上野
③守



①小熊祥子
②上野
③健治



①高津久仁子
②寺ヶ崎
③富士雄

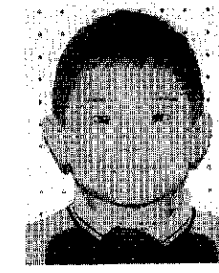


①羽鳥健弘
②木落
③健一

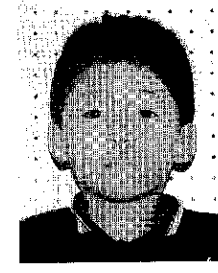


①五十嵐聡子
②野口
③久

橘小学校(31人)



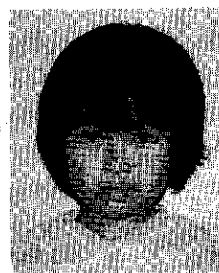
①上村泰典
②上野
③清



①押木和人
②元町
③豊彦



①山口政志
②仁田
③哲夫



①星野秀美
②野口
③久夫



①羽鳥裕史
②木落
③光男



①渡部祐太
②野口
③正巳



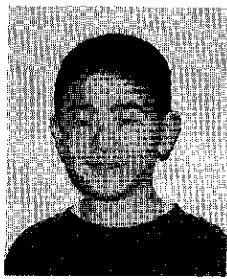
①野沢邦雄
②野口
③誠一



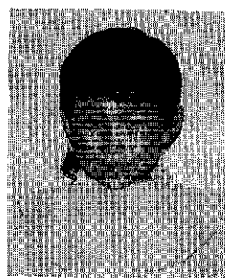
①丸山大悟
②木落
③勉



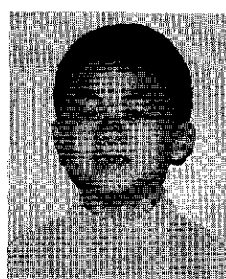
①木村 涼
②仁田
③一浩



①戸田智也
②仁田
③貴士



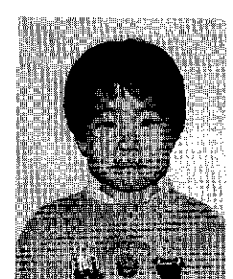
①秦野智恵美
②仁田
③守男



①大久保 樹
②野口
③正重



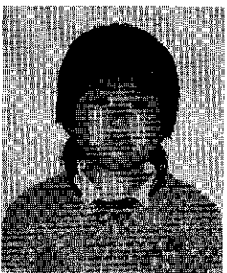
①丸山みづえ
②原田
③新作



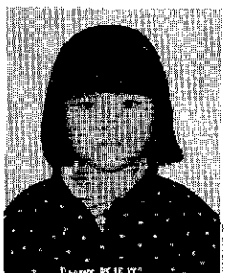
①山口めぐみ
②仁田
③利春



①水落奈織美
②仁田
③徳幸



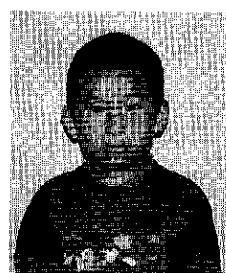
①藤巻 希
②塩辛
③明



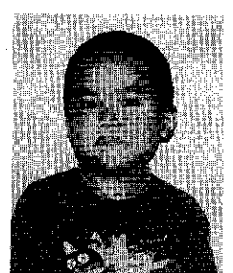
①小幡 愛
②仁田
③正晴



①秦野 学
②仁田
③昭夫



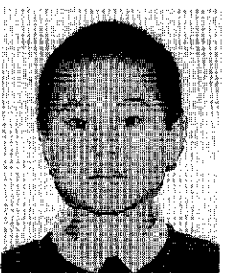
①田中宏典
②仁田
③了介



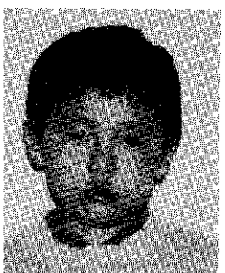
①村越 務
②野口
③和明



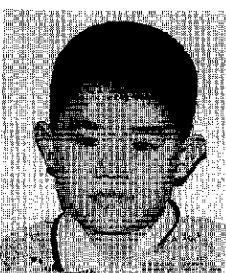
①大久保 直子
②野口
③秀夫



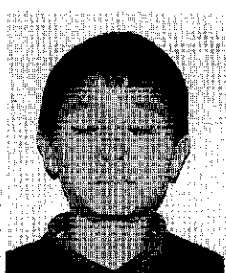
①丸山敦史
②木落
③喜一



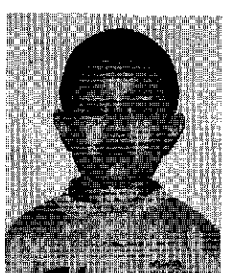
①村越鷹文
②野口
③益男



①田中 諒
②木落
③信夫



①丸山和義
②原田
③三義

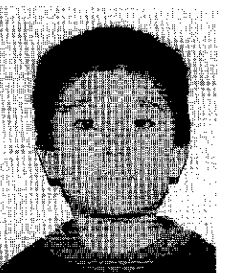


①滋野貴洋
②野口
③義和



①登坂竜也
②赤谷
③貢

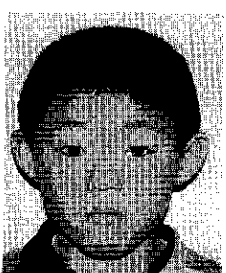
仙田小学校(6人)
白倉小学校(1人)



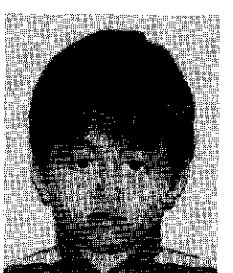
①佐藤泰之
②野口
③喜一



①山崎 徹
②寺ヶ崎
③正



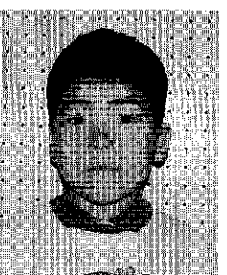
①田口幸治
②木落
③一美



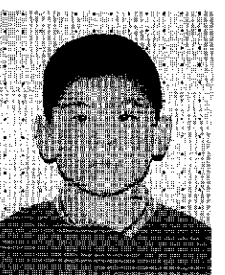
①中川祐一
②仁田
③一郎



①片桐美穂
②小白倉
③勝巳



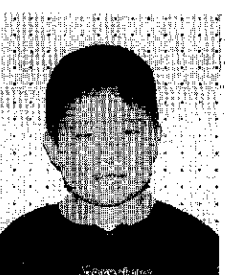
①高橋大輔
②赤谷
③正富



①高橋 隼
②室島
③力



①丸山良和
②中仙田
③基治郎



①小川和弘
②岩瀬
③良一



①小林佐季子
②中仙田
③久良

ある青年会の記録 ⑬

岩瀬 金子 幸 作

暖冬が大雪に

大正五年（一九一六）の川西郷は初雪が遅く、ことしは暖冬とだれもが喜んでいたが、暮れの二十七日から大寒波に見舞われて思わぬ下力雪になる。仙田村では、三峠を越える二十八歳の男性が猛吹雪の中で凍死し、四月の雪解けまで百日間も行方不明という騒ぎがおきる。

「欧州の戦争で大砲を撃ち合、暖まつた空気が日本へ流れて大雪になる」、こんなデマを本気で信じたオジジもいる。

年が改まると、一月下旬からさらに強い寒気が居座り、白倉で積雪一丈（三・三メートル）余を記録する。村の衆は二月の末まで雪掘りに明け暮れるが、三月は彼岸前後から晴れの口が多くなり、春は駆け足でやってくる。平場は雪消えが山地よりも早く、人力車上野組合は四月下旬から営業を再開する。

一人前の基準

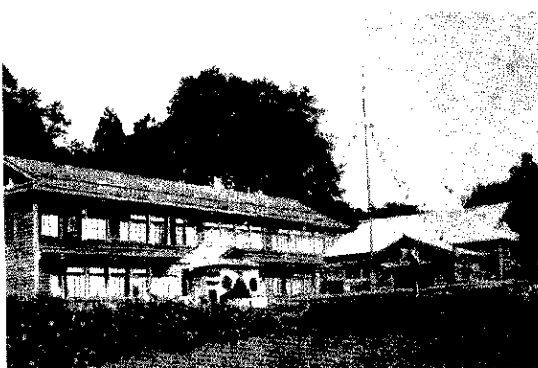
大正六年四月三日、仙田校二開催サレシ上組青年連合会ノ總會ニ招待ヲ受ケル。室島・小脇、

霧谷、藤沢ノ各青年団ヨリ百余名ノ出席アリテ盛會ナリキ。

午前九時開會、小海正平會長ノ成申詔書奉誦並ニ訓告アリ。高野栄三副會長ヨリ會則ノ説明アリテ次ノ議題ニ移ル。

①盆踊リニ付テ改良スベキ点及其方法。②補習教育上ノ連絡ヲ図ル事及ビ問題点。③三大節（四方祭・紀元節・天長節）ニ於ケル祝賀ノ実行方法。④俳句ノ衆議判ヲ開催スル件。

この年、イチチョメ（一人前）の男女について、室島で次の目安が話し合われている。



旧仙田校（室島）の全景
（「仙田校百年の歩み」から転載）

男は兵隊検査、盤持は力石十六貫（六十キロ）を持ち上げる。ボーイまるけ（注・薪を束ねること）根切りを含めて一日三十五把、田打ち一反五畝（約一五アル）稲刈り四百把、米つき二俵、稲背負い四十把、ボーイ背負い六把。

女はひとえもの、綿入れ、あわせ羽織が縫える。男衆と一緒に仕事ができる。苗取り一日五百把。

忠臣蔵で大当たり

八月十五、六日、盆祭りヲトシテ芝居興行ス。小白倉ノ戸主總會ヲ無事ニ通過セシカバ、茲ニ於テ活動ヲ開始ス。俳優ノ芸料ハ、一切ヲ合シテ金百円ニテテケハ十日ニ村中拵ゲテ為シ、当日ヲ待チ居タル所、天氣ハ折悪シク悶々ト過セシニ、夜ニ入りテ空全ク晴レシハ幸ヒナリ。

翌十六日、青年衆ハ未明ヨリ參集シ、大鼓ノ響キ中子ノ山ニ聞ユ初メケレバ、区民ハ云フ迄モナク、仙田谷ヲ始メ、橋、上野、真人、小国ヨリ觀覽人ハ潮ノ如ク寄り来リ、広過ルカト思ヒシ劇場モ忽チ満員トナル。

芝居ハ忠臣蔵、役者ハ良シ、見物人ノ稱賛ノ声モ心地良ク、其日ハ大成功。翌十七日モ疊天ナレバ幕ヲ開キ、此日モ大入

ヲ以テ、芝居モ日出度ク終ル。

橘村の青年団総会

橘村青年団は去る十七日午前八時より小学校で總會を開催セリ。出席団員百七十余名、來賓村會議員其他三十二名あり。団

長田口駒治氏成申詔書を奉誦し、開會の辞を述べ、丸山幹事の諸般の報告あり。郡總會出席代議員の報告ありて議事に移る。

團則変更の件は満場一致にて可決し、休憩後講演會を開き平沢農業技士の勤儉貯蓄、農村青年の元氣、大堀郡書記の農村振興策に関する有益な講話あり多大の感動を与え、夫より水落周作、戸田久治、小幡義布、水落鉄治、野沢熊吉氏の五分間演舌あり。午後余興相撲數十番ありて閉會し、別席にて講師の慰勞會を開きたり（十日町新聞、大正六年八月廿五日号）。

〇〇君を除名する

八月三十一日、下組連合青年會ノ總會ヲ白倉校ニ開催ス。

午後一時、鐘ノ音ト共ニ入場シ、山本忠作會長ノ成申詔書奉誦、終ッテ開會ノ辞ヲ述べル。議事ハ、青年団員トシテ素行不良ナル〇〇君ヲ罰スル件。

先般來、巧ミナル弁説ト美男デアルコトヲ好餌ト為シ、婦女子數人ト密カニ交際ニ及ビシ、

〇〇君ノ行為ハ、當青年団ノ体面ヲ著シク汚損失墜スルモノニシテ甚ダ遺憾ナリ。依テ團則ニ照ラシ、同君ヲ本團ヨリ永久除名スルコトヲ決議ス。

青年の本分を尽くす

十月三十一日、天長節ノ吉日ヲ期シテ役場ニ支部長會議ヲ開催、決定事項ハ左ノ如シ。

常ニ忠孝ノ本義ニ則リ、人格ノ修養ニ努メ、立憲治下ノ良民タル本分ヲ尽ス事。

身体ノ強健ヲ図リ、尚武敢為ノ氣象ヲ涵養シ、眞価青年ノ元氣ヲ發揚スル事。

補習教育ノ普及改善ニ努力シ、勤勞ノ良習ヲ振作シ、實業ノ發達ニ貢獻スル事。①團員ハ徵兵適合ニ達スル迄ハ補習教育ヲ受ル。②体力ノ健全發達ヲ図ル為角力、擊劍、柔術ノ稽古ヲ為ス

③浮華輕佻ノ弊ヲ去リ、奢慢ヲ戒ムル習慣ヲ作ル為、平素ハ足袋、襟卷、手袋、指輪、懷中時計等ヲ使用セザル事。

神仏敬信ノ念ヲ養成スル為、境内ノ掃除修繕、祭典ニ尽ス。公德心ヲ涵養シ、自己ノ本分ヲ尽スハ勿論、公共ノ為ニ進デ犧牲ヲ払フノ覚悟スベキ事。他人ノ葬儀、婚禮ニ對シ、礼儀ヲ失ハザル様ニ注意スル事。不正ノ發音、野卑ナル言語及訛音ノ矯正ニ注意スル事。

図書室 だより

県立新潟図書館から

図書三百冊贈与

県図書館の長期一括貸し出し中止により、県内の各市町村に貸し出し用図書が配分されました。裏表紙に県立図書館のラベルが貼ってあります。しかし、町公民館図書として登録してあります。

贈与された本の紹介

- 針と糸であそぶ 田中周子
- 野の草と木と 富成忠夫
- コメをどうする 叶 芳和
- 空手 真野高一
- 香具師口上集 室町京之介
- 私の信濃川地図 真木桂之助

- ユング心理学の世界樋口和彦
- 東西南北浮世絵草書 野間宏
- 勝海舟 村上元三
- 良寛と会津八一 小島正芳
- 小林存伝 川崎久一
- 新今夜は最高ノ 夕モリ
- 江戸小咄 駒田信二
- 風流太平記 山本周五郎
- 元禄流行作家 藤本義一
- チベットの民話 オコナー
- 冬の雁 三浦哲郎
- 青空の如く 山手樹一郎
- 完璧な病室 小川洋子
- わが風車 水上 勉
- いのちの歌 三好京三
- なみだ壺 村松友規
- 麦笛 増田みず子
- 欲望の河 丹羽文雄
- 風を蹴る 野坂昭如
- 互斯灯 連城三紀彦
- 花に三春の約あり 西村寿行
- 春草の夢 曾野綾子

川西町長選挙

川西町議会議員補欠選挙

■投票日 6月16日(日)

町選挙管理委員会(和久井守委員長)は、三月十八日委員会を開き、七月九日に任期満了となる、川西町長選挙の日程を決めました。

選挙の告示日は六月十一日、投票日は六月十六日です。

また、これと同時に、川西町議会議員補欠選挙も行われます。

ちいさな展覧会

33

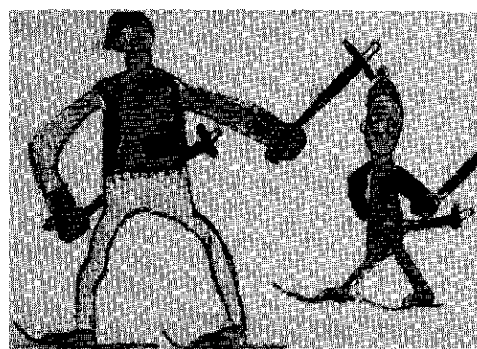
橘小学校



3年 保坂達也 君



5年 和久井直也 君



1年 のざわさとし 君



5年 五十嵐陽祐 君

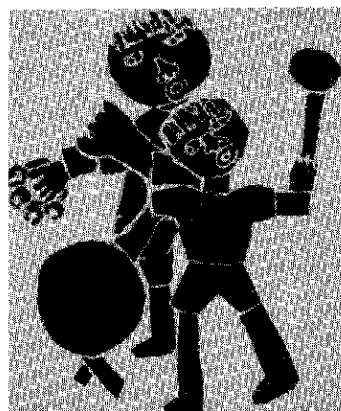


1年 わくいさなえ さん

※学年は3月当時のものです。

(5月号は仙田小学校です)

2年 和久井公太 君



4年 田口沙織 さん



戸籍の窓から

たかさごーご円満に

星名 俊一 沖立
荒内 真紀子 青森県から
滋野 大介 野口
村山 由美子 十日町市から
うぶ声ーおすこやかに
広田 恵敏 二女沖立

かわい 俳壇

太田白南風選

陽を反す白壁土蔵雪解急

寛永寺桜の花にかくれけり
岩瀬 小川 益栄

潮風に頬赤々と汐干狩
練馬区 須藤 遊人

蘆屑を軒にこぼして雀の巣
足立区 駒形 頼太

芹摘んで冷たき水に束ねけり
岩瀬 登坂伊智子

本堂にあがる歓声だんご撒き
上野 内山 寛平

涌水の雪融け早し路のとう
野口 野沢 静江

着ぶくれて巳の影を笑いけり
大倉 中条 石平

離村せし谷を抱きて山眠る
元町 金子 鉄平

田の畦を廻りて一把芹を摘む
上町 高橋 順似

山野田 藤田ひろ志

羽鳥 和樹 和則 長男木落

黒嶋 拓人 正己 長男高原田

太田 公之 裕子 長男山田住宅

中村 亮太 明子 長男坪山

昇天ーごめい福を祈る

清水 元治71(本人) 寺尾

越後 チヨ75(養子) 木島

渡貫 林蔵78(方夫) 新野新田

登坂 庄松80(賢二) 赤谷

芍薬の芽の黒土のほぐれたる

発電所通り 小川 京子

店頭にあれこれ選び野菜種

盆梅の白き花びら鉢に散り

初のをとりて種芋分けてをり

畦一面隣ぐとく犬ふぐり

春風に揺れて小川の猫柳

賑わえる春売出しの中に居る

桜咲き帰郷する日の近付きぬ

飛行雲春めく空に長々と

春の雨静かに暮るゝ灯りかな

小林 イト85(吉雄) 伊友
野上 迂一86(忠義) 上町

善意

広報発行に

山田十久二(志木市) 1万円
小林 莊平(豊島区) 1万円

4月号から、表紙を
カラーでお届けします。

祭てう楽しみもあり雪の里

雪祭夜空の花火美しき

雪解けて居間に明るき日射かな

彼岸雪六尺あると町だより

音立てゝ流れはげしき雪解川

お彼岸の水子地蔵の風車

兄弟で共に進学山笑う

雪解けの十手一面のつくしんぼ

春眠をさます小窓のみそさざい

春霞どこからとなく上匂う

軒下に春の日を受け鉢ならぶ

発電所通り春日 ぶん

富永先生をお迎えして

診療所の機能が充実

町では、四月一日から、国保診療所に富永先生ご夫妻をお迎えして診療を開始することになりました。

ご主人の衛先生は、東京都出身の三十七歳。専門は内科一般、救命救急、成人病管理です。先生は予防医学に興味を持たれ、健康管理ということに非常に熱心に取り組んでいます。病気の治療はもとより、皆さんからの相談にも、きめ細かな指導をさせていただきます。

一方、満里子夫人は、静岡県出身の三十五歳。専門は、内科(消化器内科) 皮膚科、漢方です。各種健康診断もできます。

胃がん検診で精密検診の該当になった方は、診療所で胃カメラの検査もできることになりました。早期発見、早期治療を心がけて、元気で長生きができるようにしましょう。

